

市民生活を守る為に

高久 昭二 議員

収納率の向上に努めるべきでないか。

い。予算権も裁量権も無い。住民の相談に対して「後日お答えします」というのでは一昔前の間接行政サービスだ。早急に住民の相談に対し円滑に進める事の出来る体制にすべきであるがいかがか。

質問 職員の勤務意欲と自覚については上司の指示命令や監督の有り様で決まる。昨今公務員の不祥事が多く発生している。職員の意欲・自覚を促し、自浄作用が機能できるようにしっかりとした指導が求められているが。

市長 地域センターは、本課が他庁にあり、且つ住民と深く関わりのある業務について、不便を解消するために設けられたもので決して二重構造の行政機構ではない。

市長 合併により三地区の職員が同じ職場で業務を行っているが、業務に慣れ、他地域の今までと違ったやり方に触れ戸惑いながらも前向きに取り組んでいる所である。指摘されるような事があつたら個々に改善指導、研修等行いそれらのレベルアップを図って行きたい。

質問 庁内に設置された行政プロジェクトは仙北市の大きな変革に向かって組織の見直しを検討するべきものが、現在の体制では事務・事業の軽微な見直し程度しか出来ないのではないのか。仙北市の道筋に大きな改革と方針を示すプロジェクトであるべきだがいかがか。又、質の高い行政サービスも提供するたのめ庁舎内組織が必要と思う

質問 内陸線については、代替の検討も視野に入れ、仙北市の方針を明確にして会社へ提言すべきであるが。

市長 行政改革は永遠の課題であろうと思っている。行革プロジェクトには今も四月一日の新年度に向けての仙北市としての組織、人員配置等、必要の課題を取り上げてもらっている所であります。これで終わりと言う事ではない。

市長 内陸線は県より代替えの提案もあつたが赤字額が一億五千万円以内であれば継続可能という事で乗降客八十二万六千六百人の具体的な計画を立て取り組んでいる所であります。内陸線を存続する方向での努力を進めてまいりたい。

市長 仙北市は除雪を西木町を除いて民間業者委託をした。記録的な豪雪や諸般の事情が重なり市民から苦情や注文が殺到した。そのため民間委託のみの手法を改め合併前の西木町のように直営部門も多く取り入れることも視野にいれ検討すべきではないか。

市長 民間委託を導入と豪雪が重なり、市民の皆さんにご迷惑をかけたことをお詫びしたい。また、経費の節減と職員定数の関係で民間委託は、今後も続けていく。

市長 除雪等の経費五万円以上を雑損控除にできることについてなぜ広報やお知らせナビで仙北市民に周知徹底を図らなかつたのか。

市長 雑損控除は確定申告の会場で説明していく。今後は広報やお知らせナビでも徹底させたい。



市長 二月十日十二時少し前に災害の一報を受取り、一時には対策本部を作り二時から予定されていた市町村圏議会の会議に出席した。予定された会議が詰まつており優先順位は私の判断で行い現地に行ったのは一週間後である。その間現地とは連絡は密にしていたし、「鶴の湯」さんには電話でお見舞いを申し上げ、観光協会長としてのとった処置に対して感謝申し上げます。

市長 仙北市内でも長引く不況の中自営業者、農家、年金生活者など厳しい生活を余技なくされている。そのため収納率向上もこのままでは多くは期待できない。そのため、基金の取り崩しのほかに一般会計から一部繰り入れ、国保税率を少しでも引き下げ、税負担を軽減し、さらに

市長 国保税率下げることが、出来ればそうしたいが、しかし厳しい財政の中では激変を避けた三町村の平均的な考え方の調整ということでご理解を願いたい。

市長 国指のペナルティとして実施している短期被保険者証、資格証明書発行について特に資格証明書は、病院或は診療所で受診した際、金額支払わねばならずその結果、極力受診を抑えるため病気を悪化させるなど社会問題にもなっている。発行の規準はどうなっているのか。

市長 国保の短期被保険者証、資格証明書発行については慎重に当たらねばならない。

市長 旧角館町では担当主幹や課長が係から納付内容を聞き税の公平の見地からやむをえず交付をしている。

市長 介護サービスで国は、地域事業交付金や地域介護福祉空間整備等交付金を支給することになっている。これに呼応して仙北市では、どのような事業を展開するつもりか。

市長 仙北市では今のところ事業を展開するつも